

野澤和之監督作品「がんと生きる言葉の処方箋」「認知症と生きる希望の処方箋」に続く処方箋シリーズ第3弾

ドキュメンタリー映画

Dr.カキゾエ

歩く処方箋

～みちのく潮風トレイルを往く～



歩け、歩け。道境にたたきつけても、
人は復活する力を持っている。格闘する
医師は、みちのくの旅でなにも見たかも。

山根基世

主演：垣添忠生 みちのく潮風トレイルで出会った人々

監督：野澤和之 俳句朗読：山根基世

ゼネラルプロデューサー：田寺順史郎 プロデューサー：上田幸伺 高瀬政廣 赤間敏孝 追分健爾 企画協力：森田幸子 中村智志 撮影監督：堂本昌宏 撮影：吉田 誠 葛原圭人 松崎高久
編集：平井将人 技術協力：川口良美・abyss 堀江亜希 音楽：合田享生・t&kプロジェクト 編曲：大川友章 歌：田島玲子 挿入歌：「わせねでや」 作詞：内海和江 作曲：ヒザシ 歌：半崎美子
MA：竹山公一郎 studio CATS 広報：井上 正 RISE co.ltd. 事業協力：株式会社オーバル・アドバタイジング 協力：公益財団法人 日本対がん協会 製作：Dr.カキゾエ歩く処方箋映画製作委員会
2024 | 日本映画 | カラー | ステレオ | DCP | 120分 | 映倫G | © 2024 Dr.カキゾエ歩く処方箋映画製作委員会 配給：武蔵野エンタテインメント株式会社

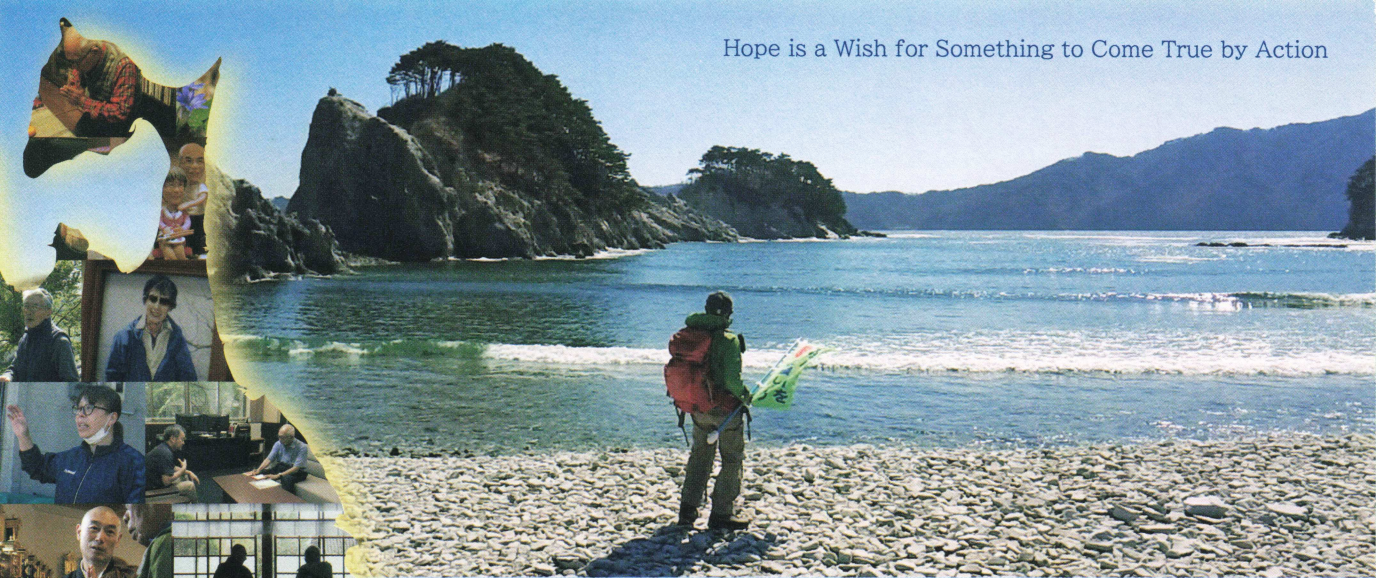


公式サイト

映倫

G

124737-A



がんの専門家である垣添忠生医師が、青森県八戸市から福島県相馬市までのみちのく潮風トレイル1025キロを歩くロードムービーです。

歩くことで、がんサバイバーの支援と東日本大震災の被災者の心の傷に少しでも寄り添いたいという思いから、82歳になるドクターカキゾエは、歩く決意をしました。

雨が降っても、風が吹き荒れても、ひたすら歩き続けます。移り変わる美しい自然の風景とともに、歩くときさまざまな人々との出会いが生まれます。がんと共に生きる女性、震災の悲しみをそれぞれのやり方で乗り越えようとしている人々。ドクターカキゾエは、歩きながら思索を重ね、確信したことがあります。

「がんでも、震災でも、人は逆境にたたされても、必ず復活する力を持っている。」復活する人の強さとは何か？

映画は、静かにその答えを示唆してくれます。

がんサバイバーと3.11被災者に出会う Dr.カキゾエ・82才の1025km

奥様を亡くした消えない悲しみに抗うような、垣添先生のひたすらな歩みに心打たれました。被災者やガン患者、それぞれの痛みに寄り添うことが、互いを癒し立ち上がる力になる。是非ご覧頂きたい映画です。アナウンサー 山根基世

三陸海岸1000キロを完歩する82歳、垣添先生の歩みの力強さ温かさ。その姿に共鳴したがんサバイバー、震災被災者たちから語られる言葉に多くの人が励まされるに違いない。フリーアナウンサー 笠井信輔

イラスト：嵐山光三郎



垣添忠生 Kakizoe Tadao

1941年大阪府生まれ。東京大学医学部卒業。国立がん研究センター病院に泌尿器科医として勤務。後に総長を務める。現在は、公益財団法人日本対がん協会会長。がんの診断、治療、予防に幅広く関わり全がんに関心している。著書「がんと人間」「妻を看取る日」「カキゾエ黄門漫遊記」他多数。